



セッション1 (全体セッション)

ナショナル・イノベーション・システムの比較検討 —多様性が共通課題か

チェアパーソン：馬場 靖憲

東京大学先端科学技術センター教授

ラポルトツール：鎗目 雅

東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授

セッション1は、ナショナル・イノベーション・システムの比較検討に焦点を当てる。イノベーションは、企業、大学、公的研究機関を含めた多様なアクターの間複雑な関係の結果として創出される。ナショナル・イノベーション・システムに含まれる制度のネットワークは、その特徴的なインセンティブ構造と能力によって、一国の技術学習の速度と方向性、ひいてはその国の企業のイノベーション能力に大きな影響を与える。

このセッションでは、市場指向型で規模の大きい先進国（日本、アメリカ）、比較的小規模な先進国（スウェーデン）、近年発展が著しいアジアの新興工業国（韓国、中国、ベトナム）を含めた6つの国からの報告を行う。各国からの報告によって、多様なバックグラウンドを持つ国々においてイノベーションを支える制度とメカニズムを明らかにし、政府、ビジネス、教育・研究機関、市民などのステークホルダーの役割を検討する。ナショナル・イノベーション・システム間での相違点を認識し、各国の規模、文化、経済発展の度合いの違いがイノベーション能力にどのような影響を及ぼしているか議論を行う。

日本における1990年代初頭以降の成長の鈍化、サイエンス型イノベーションにおけるアメリカの復活、ヨーロッパにおける企業のイノベーション能力に関する懸念、経済的・技術的大国としてのアジア諸国の興隆など、近年の動向を背景として、ビジネス・政策コミュニティにおいてイノベーションへの関心が急激に高まっている。例えば、韓国の技術的洗練化は、まだサイエンス型イノベーションが弱い国々において、どのようにしてその成功を模倣できるのか真剣に検討することを促している。同時に、中国やベトナムなど共産主義的バックグラウンドを持つ国々のナショナル・イノベーション・システムについても強い関心が寄せられており、それが現在および将来の経済的パフォーマンスにどの程度の影響を及ぼすのか理解することが必要と認識されている。

このセッションはまた、各国に共通する課題を議論することも目指している。特に、経済成長と環境保全の両立を目指す新しい概念として、「持続可能な開発」が重要となっている。その目標の達成に向けて確かな一歩を踏み出すためには、企業の技術能力が競争力の重要な源泉であるということの明確な理解と、その能力を環境保全のために地球規模で活用していく必要があるという強い信念を組み合わせることが必要不可欠である。このセッションでは、イノベーション・システムにおける多様なバックグラウンドを持ったアクターが、地球レベルでの持続可能性を実現するために協力していくための技術的、経済的、制度的条件について議論する。